



Intel **IT** Center

ビジョンペーパー 職場改革

改革とイノベーションの受け入れに向けたインテルのビジョン

Jim Henrys – インテル チーフ・ストラテジスト兼アーキテクト

この資料の概要

このビジョンペーパーでは、企業文化、IT、施設に及ぶ包括的なアプローチによる職場改革に対するインテルの原則について説明します。内容は次のとおりです。

- 非定型業務の重視、職場の仮想化、アイデアの民主化による隠れたビジネス・インテリジェンスの解放など、新しいワークスタイルの採用
- 主要テクノロジーを使用した高度なコラボレーション、個人の生産性の向上、統合型施設の実現による改革の促進
- 企業文化におけるイノベーション、スピード、オープン性、説明責任の支援
- 新たなデジタル・ビジネス・プラットフォームであるソーシャル / モバイル / 分析 / クラウド (SMAC) パラダイムの容認
- 職場をワークスタイルに合わせるための最適な環境の構築

目次

- 3 変化する環境
- 4 イノベーションに伴う課題
- 6 テクノロジーの役割
- 9 三位一体戦略：文化、IT、施設
- 11 インテルIT部門：内側を知る
- 14 展望
- 15 関連情報

変化する環境

職場の性質そのものが急速に変わりつつあります。従業員がどこにいるかに関係なく、仕事は、複数の場所から、さまざまなモバイルデバイスを使って行われます。競争が行われる環境も同様に、急速に進化しています。その一方で企業は、サービス、テクノロジー、価格の面で互角に戦えるようになった競合他社からの強烈的な圧力に直面しています。すでに確固たる地位を確立した企業ですら、モビリティとクラウドによって促進される、革新的な新しいビジネスモデルへの対応という圧力に直面しています。

このような激しい競争環境の中で組織が生き残るには、改革が必要です。そして、改革の取り組みには、製品、サービス、ビジネスモデルなど、多くの面でのイノベーションが不可欠であり、その改革もこれまでにない速度で成し遂げられなければなりません。すでに多くの組織で、経営陣自らが推進力となって改革を進めています。ビジネスリーダーは、改革の必要性を認識し、従業員のワークスタイルを根本的に変える必要があると結論付けています。なぜでしょうか？ それは、イノベーションを

生み出す源が人だからです。そして、改革を可能にする唯一の存在がITです。

現在、デジタルビジネスを構築する新たなプラットフォームであるソーシャル/モバイル/分析/クラウド(SMAC)パラダイムの背後には、業界の共通認識が存在しています。そして、このパラダイムが職場に多大な影響を及ぼしていることは間違いありません。ただし、テクノロジーは考慮すべき要素の一部に過ぎず、改革は決して簡単なものではありません。真の改革のプロセスは、文化面、環境面、技術面など多くの面で、企業に課題をもたらします。新しいワークスタイルを支援するには、テクノロジーだけでなく職場も進化する必要があり、最終的な成功には文化的要素も不可欠です。

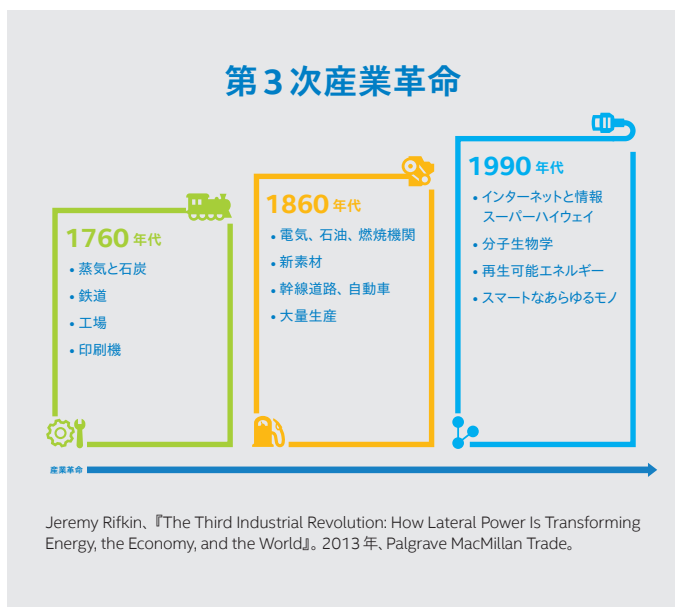
このビジョンペーパーでは、改革への課題や障害から、組織がより大きな成功を収める上で役立つ原則まで、職場改革に向けたインテルのビジョンについて説明します。



イノベーションに伴う課題

世界レベルで大きな変化の時代に突入したことは間違いありません。ビジネス環境が目まぐるしく変わっていく中で、組織はすでに対応を始めています。しかし、多くの組織がまだ対応の途上にあります。そして、こうした大規模な改革を最終的に可能にするのはテクノロジーです。

およそ100年ごとに、こうした大きな時代の変化の波が訪れました。技術革新が新たな社会経済を生み出す最大の要因であることは明らかです。1760年代の産業革命という第1波に始まり、現在はその第3の波について話を述べています。



現在、変化を積極的に受け入れているビジネスリーダーには共通点があります。彼らはイノベーションが人によってもたらされることを認識しており、こうした考えを組織全体に浸透させようとしています。組織は従業員の集団的インテリジェンスを活用することで、共有された知識とリソースからより多くのものを得て、最終的にさらに大きな報酬に手が届くことができます。こうした先進的な考えを持つ組織は、仕事そのものの本質を変革することによってイノベーションを推進し、その勢いを増しています。

新しいワークスタイル

最近、一般的になりつつある新しい手法とアプローチの一部を以下に示します。

- **アジャイル開発または「スクラム」:** 1つの問題にチーム全体で取り組むなど、メンバーが協力し、共同で集中的かつ反復的に作業することを可能にします。
- **非定型業務の重視:** 価値の高い仕事は、従業員の創造性、市場インサイト、個人ネットワーク、他者への影響力によってもたらされることを認識すると同時に、反復的な定型業務はますます自動化が進むだろうことを理解します。
- **人材の獲得:** 最も効果的で柔軟な職場環境を提供することで、適切な人材を惹きつけ、引き留めます。これは、特にミレニアル世代を惹きつける場合に当てはまります。
- **職場の仮想化:** 仕事とは、従業員が行く場所ではなく、従業員が行う作業であるという点を理解し、従業員がいつでもどこでも制限なしに生産性を維持できるようにします。

人々にパワーを

次に、組織でのコラボレーションを促進する方法を示します。

- **共同体としてのまとまり:** 誰もが積極的に発言できるような環境を整えることで、アイデアを民主化して隠れたインテリジェンスを解き放ち、一体感を生み出します。
- **クラウドソーシング:** イノベーションの宝庫としての「市民開発者」プールを活用します。
- **ハイパー接続:** 企業ファイアウォールを越え、地理的な制約を超えることで、パートナーや関連会社の豊富なエコシステムと共同作業を行います。

成功の障壁

こうしたアジャイル手法の多くは、非現実的なものではありませんが、課題がないわけではありません。今日の企業には、こうしたワークスタイルの実現を阻む多数の障壁が存在しています。

産業化時代の静的なプロセスとツール

静的なプロセスとその実行に役立つテクノロジーが、従業員のワークスタイルに適さない場合があります。これは特に、今日の従業員が分散している場合に当てはまります。従業員が適切なツールを入手できない場合や他のチームメンバーと簡単にコラボレーションできない場合、ワークフローが中断され、チーム全体の生産性が低下し、最終的に企業の生産性が低下する可能性があります。

例えば、会議室にいる従業員と電話で参加する遠隔地の従業員との標準的なブレインストーミング・セッションについて考えてみましょう。会議室の従業員は、ただホワイトボードやフリップチャートに走り書きし、写真を撮って電子メールで送るだけの存在となってしまいます（「次の素晴らしいアイデア」はパブリック・クラウドのどこかに同期はされます）。ケーブルはいたるところにあり、従業員はいつも電源コンセントを探しています。こうした状況は、会議室にいる人々にとって苛立たしいのはもちろんですが、タイムリーにコラボレーションできない電話での参加者にとってはさらに深刻です。

適切な職場環境とテクノロジーが用意されていない場合、同じ建物にいる従業員の間さえ問題が発生する可能性があります。会議室が空いていなかったり、なかなか見つけられない場合があります。適切なアダプターがないため、会議室のプロジェクターが使えないこともよくあります。また、パスワードを忘れてしまったり、テクノロジーに互換性がなかったり、ちょっとした苛立ちから、個人の生産性が損なわれる可能性もあります。こうした例は、枚挙にいとまがありません。

閉じ込められたビジネス・インテリジェンス

大企業に共通するもう1つの課題として、「閉じ込められた」インテリジェンスがあります。特に、世界中に分散している大規模な組織では、正しい答えを知っている適任者を見つけることが極めて困難な状況にしばしば遭遇します。さらに、ビジネス・インテリジェンスが問題となることもあります。今日の企業は、テラバイト単位のデータであふれており、そのすべてを管理することは簡単ではありません。適切な分析を行うことができれば、こうしたデータから組織の意思決定のカギとなるインサイトが得られます。

ソーシャルでスマートな企業の構築

ソーシャルでスマートな企業を実現することにより、共有された知識やデータに常にアクセスでき、オープンでありながら接続された環境を確保できるため、ビジネスの俊敏性とスピードが高まります。人にとっての「共同体としてのまとまり」の概念と同じ原則が、コンピューティングにも適用されます。ソーシャル・コンピューティングと高度なコラボレーションを支援することで、すべての従業員が同等に発言できるようになり、アイデア共有の民主化が実現されます。従業員は、物理的な場所に縛られることなく、簡単に意見を共有し、質問があるときには協力して、必要とする専門家を見つけることができます。

また分析データが民主化されると、組織は「スマート・アドバイザー」アプリケーションを使用して、全従業員が重要なビジネス情報を入手できるようになります。企業全体でリアルタイムの情報に簡単にアクセスできるようになれば、従業員はワークフローと同じペースで、多くの情報に基づいた正確な意思決定を行うことが可能となり、より大きな成果を上げることができます。

テクノロジーの役割

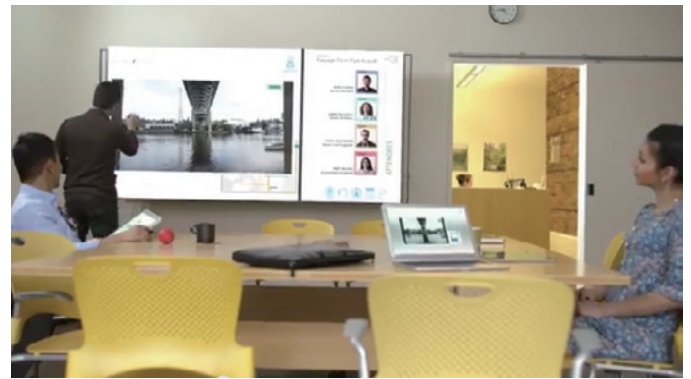
変化に対するニーズは、課題と改革の実現の間あたりに位置します。それが現在の状況と目標とする状況の差ということです。インテルの職場改革の将来的なビジョンと改革を可能にするテクノロジーの役割は、企業が改革できる次の3つの手法が対象となります。

- **高度なコラボレーション**：分散したモバイルワーカーが、何の障壁もなく簡単に問題を解決し、情報を共有できるようにします。
- **生産性**：ワークフローを簡素化し、従業員をコンピューティングの負担から解放することで生産性を実現します。
- **統合された職場環境**：組み込みインテリジェンスを使用して生産性を促進し、コラボレーションを向上させます。

高度で自然なコラボレーションのサポート

今日では、企業の従業員は複数の拠点、都市、国に分散しているため、コラボレーションが重大な課題になります。再び従来のブレインストーミング・セッションの例を挙げれば、静的なホワイトボードの制限や遠隔地の参加者とのアイデアの共有などの課題があります。ビデオ会議が適切な代替手段のように思われますが、今度はビデオの品質が問題となる可能性があります。

グローバルチーム、小規模グループ、簡単な1対1のセッションなど、セッションの規模や形態を問わず、高度なコラボレーション・テクノロジーによって、従業員は直感的で自然な方法でつながることができます。例えば、(ライブ・バックグラウンド・マスキングを備えた)HDオーディオ/ビデオによるユニファイド・コミュニケーションは、臨場感あふれる体験によってビデオ会議を変えつつあります。従業員は、タブレットからプロジェクター用スクリーン、その間にあるすべてのデバイスをカバーする対話型の共有マルチタッチ・ホワイトボードを使用して、リアルタイムでやり取りできます。ホワイトボードはリアルタイムで出席者全員の目の前に提示され、誰でも利用することができます。



コラボレーションの変革

変革前：

変革後：

同じ部屋にいるチームメンバーだけが効率的にコラボレーションできる。

すべてのチームメンバーが、自然で臨場感あふれるコラボレーション機能を使用できる。

出席者は、スクリーンやホワイトボードの写真を電子メールで送って共有しなければならない。

遠隔地の出席者がリアルタイムで表示、閲覧、そしてやり取りができる。

相手を見つけにくい。

従業員はピアツーピアのタッチ / ジェスチャー機能を使用できる。

ビデオ会議の品質が悪い。

出席者は、ライブ・バックグラウンド・マスキングを備えた臨場感あふれる HD ビデオ / オーディオ体験が得られる。

個人の生産性の向上

生産性に関して言えば、バッテリー残量の少ないノートブックPCやパスワードの問題など、些細な問題がワークフローの妨げとなる可能性があります。例えば、パスワードを忘れてしまい、ログインするにはIT部門の支援が必要になるとしましょう。こうした事態は、時間がかかるだけでなく、ワークフローも中断されます。また、プロジェクターに接続できないなど、共有作業に必要以上の時間がかかる場合もあります。

インテルは既存のワークフローを支援することによって、こうした煩わしい問題から従業員を解放し、生産性を最大限に高めるために、次のような対策を進めました。

- 「**ユーザー自身がパスワード**」体験は、生体認証によって実現されます。パスワードの入力が確実に高速化されるだけでなく、安全性も高まります。「123456」といった見破られやすいパスワードを作成することや、パスワードを書き留めておく必要はなくなります。

- **ケーブルのない職場**が、もうすぐ実現します。内蔵ワイヤレス・ディスプレイにより、従業員は安全性の高い環境でプロジェクターに自動的に接続できるようになりましたが、ワイヤレスの未来はそれにとどまりません。ワイヤレスタッキングとワイヤレス充電によって、さらにシームレスな体験が生み出されます。
- まもなく登場する**デジタル・アシスタント**により、ワークスタイルが一変します。あらゆる指示をデバイスに伝えるのではなく、全く逆の関係が実現します。事前対応型のコンテキスト・レコメンデーションと強力な音声認識により、デバイスがユーザーのニーズを予測できるようになります。また、内蔵の盗難防止機能により、近接度と動きが自動的に測定され、外出先でのリスクレベルが判定されます。

ワークフローの改善

改善前：

改善後：

覚えておかなければならないパスワードが多すぎる。	生体認証によって実現される「ユーザー自身がパスワード」技術を使用する。
画面を簡単に共有できない。	ワイヤレス・ディスプレイを使用する。
アダプターがない、またはアダプターに互換性がない。	ワイヤレスデータ共有を使用する。
電源ソケットがない。	ワイヤレス充電 / ドッキング機能が得られる。
デバイスが十分に「スマート」ではない。	デジタル・ビジネス・アシスタントが先を見越したレコメンデーションを提供する。
音声認識が役に立たない。	デバイスがユーザーとユーザーの選好を「把握」している。
デバイスが仕事を楽にするのではなく、仕事を増やしている。	位置情報ベースのサービスにより、必要なモノを見つけることができる。

統合された職場環境の利用

職場環境が現場に課題や問題をもたらしているにもかかわらず、多くの企業がその現状に目をつぶっています。このため、空いている会議室を見つけることや、その会議室自体にたどり着くことが困難な場合も少なくありません。また、オーディオ/ビデオの品質が低いことを考慮に入れると、オフィスの内外を問わず、すべてのチームメンバーのワークフローに影響を及ぼす可能性があります。

インテルは、次の2つのテクノロジー分野を中心として、新しい統合型施設体験の実現に取り組んでいます。

- **位置情報ベースのサービス**：人や会議室、プリンターに至るまで、現在の位置に基づいて、ユーザーが必要なリソースを見つけ出すことを支援します。PCがユーザーの現在地を認識するのと同様に、建物も

これを認識するようになります。例えば、会議室が自動的に会議の設定と準備(適切なコンテンツの検索、遠隔地の出席者とのコンテンツの共有など)を行うようになります。

- **組み込みテクノロジー**：施設自体にテクノロジーが組み込まれます。臨場感あふれる高品質のオーディオ/ビデオにより、自然で手軽な体験が保証されます。また、将来的なタッチ/ジェスチャー/自然音声コントロールの構成要素として、豊富なコンテキスト認識が含まれるようになります。組み込みインテリジェンスの観点から言えば、建物の基礎構造に組み込まれたセンサーが、効率性の高い建物管理から、空いている会議室の検索や場所の特定に至るまで、さまざまなタスクを支援します。

施設の革新

革新前：

従業員が空いている部屋やその場所を見つけることができない。

会議室に適切なテクノロジーがない。

低品質のビデオ会議がワークフローの妨げとなっている。

従業員がコンテンツを簡単に共有できない。

革新後：

位置情報ベースのサービスが、すぐ近くの利用可能なリソースを見つけ、そこまで案内する。

会議室が会議に必要な段取りを自動的に設定する。

臨場感あふれる自然な A/V を実現する。

タッチ / ジェスチャー・ベースのコンテンツ共有がサポートされる。

三位一体戦略：文化、IT、施設

テクノロジー基盤もまた、パズルの巨大なピースでしかないため、最終的な成功を実現するためには包括的な戦略が必要です。ITだけで推進される改革への取り組みは、経営幹部のニーズを満たすことはありません。次の段階として、こうしたビジョンを統合された戦略に取り入れる必要性が生じます。企業全体にわたる真の改革を実現するために、インテルでは、企業文化、IT、施設に対応する三位一体戦略を推奨しています。

テクノロジーと変革はイコールではない

「従業員が変わることを支援できなければ、テクノロジーが彼らを取り囲むあらゆるモノを変革しても、わずかな違いも生み出さないうえです」

— Dave Coplin, 『Business Reimagined』

文化：改革の支援と受け入れ

新たなレベルのイノベーションを実現するには、テクノロジーの枠を超えて、ワークスタイルを根本的に変える必要があります。現時点で革新的な企業として注目を浴びている企業のほとんどが、新たに登場したワークスタイルを採用しています。

新しいワークスタイルが効果を発揮するためには、企業全体が、仕事の新たな標準やプラクティスの重要な推進要因である組織開発および人材によって支えられていることが求められます。例えば、組織が建物内にオープンな職場環境を構築しようとする場合、あるいはモバイルワーカーがどこからでも簡単にコラボレーションできるようにする場合には、そうした改革が支援されていることを従業員が認識する必要があります。そして、何よりも従業員自身が改革に適応しなければなりません。

こうした文化的な変革とは、その大部分が精神的なものだとすれば、従業員/雇用主のパラダイムシフトを意味します。例えば、モバイルワークとは、目標を設定し、従業員の成果を評価する新たな方法(オフィスで費やされた実際の時間ではなく、成果と影響の重視など)を見つけることだと考えられます。

統合された包括的な戦略



人材

- 文化
- 仕事のプラクティスと確立された「標準」



IT

- ソーシャル
- コラボレーション
- コミュニケーション
- モビリティ



施設

- オープンな職場環境
- 現代的で居心地の良いエリア
- スペース効率



新しい
ワークスタイル

- 動的なチーム編成
- 知識の共有
- インサイト獲得の迅速化
- スピードの向上

また、経営幹部レベルでは、必要な改革を成し遂げる上で目標の調整が不可欠となります。不確実性とあいまいさを排除しながら最終目標を定め、一連の新たな期待を浸透させるには、一貫した明快さが必要となります。特に重要なのは、企業全体として、以下の主要な特性を取り入れることです。

- **イノベーション**：新しいテクノロジーが既存のビジネスプロセスに統合され、日常的なワークフローに自然に組み込まれるように、アジャイル手法、つまり「チーム全体での取り組み」を支援します。イノベーションを促進する効果的な方法の1つは、従業員が改革を受け入れていることを認識し、それに対する報酬を与えることです。
- **速度**：非定型業務（非定型化）を推進し、決まりきった日常的なプロセスを重視するのではなく、従業員のインテリジェンス、インサイト、創造性を活かします。Gartnerによると、2015年までに非定型業務がワークロードの40%を占めるようになります。
- **オープン性**：分散した従業員が新しい仮想ワークスペースで確実にハイパー接続されるようにし、オープン・コミュニケーションを促進して隠れたインテリジェンスを解放します。クラウドソーシングを利用して誰もが積極的に発言できる環境を整え、アイデアを民主化して、一体感を生み出します。また、従業員がこのプロセスに満足していることを確認することも重要です。
- **説明責任**：経営陣が実践し、モデル化される環境を作り、適切なレベルのサポートとトレーニングを従業員に提供します。

文化の変革は、比較的簡単なことのように思われます。しかし、テクノロジーの変革を行った後、文化の変革への支援を怠るという過ちを犯してしまう企業は少なくありません。こうした状況は「ツール疲れ」とも呼ばれます。例えば、組織が新しいソーシャルツールを導入したものの、従業員のトレーニングを怠ったり、そのツールがどのように役立つかを従業員に明確に示さなかったとします。従業員には、そのツールは電子メールと同様の単なるコミュニケーション・ツール、あるいはドキュメントを保存する場所に見えるかもしれません。その結果、ツールは使用されなくなり、全体的にはこのプロジェクトは失敗とみなされます。しかし本当は、リーダーによるモデル化と伝達が欠けていたため、従業員が変革の価値を理解し、安心して新たな手法を取り入れられる環境の構築が不十分だっただけなのです。

IT：SMACスタックの実現

SMACパラダイムは、デジタルビジネスの新たなプラットフォームとして受け入れられるようになるにつれて、職場改革でも重要な役割を果たしています。この4つの相互に依存する要素の融合が、改革の推進に相乗的な影響を及ぼし、全体として非常に大きな効果を発揮します。

業界ではSMACの影響を幅広く支持しています。IDCはこれを「Third Platform（第3のプラットフォーム）」と呼び、Gartnerは「Nexus of Forces（力の結節）」¹と呼んでいます。インテルはこうした同じSMACの礎石の上に築かれた土台をSMACスタックと呼んでいます。

ソーシャル

ソーシャル・コンピューティングにより、相手が同僚か顧客かを問わず、自然な形で直感的にコミュニケーションやコラボレーションを行うことができます。従来のコミュニケーションの階層構造が排除されて、地理的境界を越えたつながりが強化され、企業全体に有益な情報が公開されます。また、アイデアや意見が民主化され、全従業員が同等に発言できるようになります。

モバイル

仕事とは、従業員が行く場所ではなく、従業員が行う作業そのものを指します。そして、これを実現したのは、いつでもどこでも仕事をする能力を備えたモバイル・コンピューティングです。モバイルデバイスの利点は、柔軟な労働形態の枠を超えて、企業の俊敏性と応答性のさらなる向上の支援にまで及んでいます。

分析

高度な分析により、意思決定のポイントでリアルタイムに現実的なインサイトが得られ、組織全体での情報に基づく意思決定を促進できます。つまり、ビジネスに不可欠なデータを全従業員に提供する「スマート・アドバイザー」が実現するということです。分析の民主化により、有益なデータが取締役会という閉鎖された空間に閉じ込められることはなくなります。

クラウド

クラウドでのITシステムの共有により、デバイスやデータの同期も含め、従業員はあらゆるデバイスで、いつでもどこからでも必要な情報にアクセスできます。また、クラウドはオフィス環境を仮想化する機会でもあり、職場改革にとって重要です。紙の文書やリファレンス・マニュアルをクラウドから入手できるようにすれば、いつでもどこでも利用できるようになります。

施設：イノベーションのための場所の構築

新しいワークスタイルを支援するには、適切な物理的環境が必要です。職場とワークスタイルが一致するように、両者の間に一定の調和を実現することが重要です。

施設とITの関係はますます緊密になっており、両者が融合することもあります。例えば現在、会議室の会議用テーブルは、基本的にはただのテーブルですが、近い将来にはインターネットとネットワークに接続されたタッチスクリーンが、テーブルの表面に組み込まれる可能性があります。このような未来のテーブルは、ただの什器ではありません。モノであると同時に、ITの領域に属することになります。

無線によるプロジェクターへの画像の送信から、会議の自動設定や位置情報ベースのサービスの提供まで、あらゆるモノを制御する建物の組込みインテリジェンスについて考えるときにも、同じことが言えます。施設とITの間には必然的に重なる部分があることから、両方の能力を組み合わせ、連携させるために、この両方に対して責任を負う担当者を用意することこそ、理想的な職場改革戦略です。

インテル IT 部門：内側を知る

インテルは、この三位一体戦略を使用して、文化、IT、施設の改革を進めています。インテル IT 部門では、SMAC スタックのソーシャル、モバイル、分析の各要素と、もちろん施設についても、機能を実現するために将来を見据えた段階的アプローチを採用しました。

従業員の満足度の向上

インテルがソーシャル・コンピューティング機能を拡大することで、従業員の満足度が向上しました。

同僚の顔を見ながらリアルタイムにやり取りすることで、生産性が向上するだけでなく、仕事楽しくなることが、従業員から報告されています。

デフォルトでソーシャル

インテルでのソーシャルの取り組みは、単純なコンテンツ共有とインスタント・メッセージングから始まりましたが、従業員のモバイル化が進むにつれて急速な展開が見られました。ユニファイド・メッセージングとビデオ会議によって、複数の都市や国に分散する従業員のコラボレーションがすぐにサポートされました。現在のソーシャル機能への取り組みは次のとおりです。

- 内蔵デュアルアレイ・マイクと高精細カメラを活用した、オーディオ/ビデオ会議でのユニファイド・メッセージング機能やソフトフォン機能など、完全な対話型コラボレーション体験のサポート。
- コラボレーションとドキュメントの共有、および Expert Finder (情報の検索、発見、同僚との共有に使用するグローバルリソース) に対応するためのソーシャル・プラットフォームの拡張。
- 対話型電子ホワイトボード機能の拡張、フル HD オーディオ/ビジュアル機能を備えた仮想ワークスペース、あらゆるデバイスで電子メールアクセスを簡素化して統合するメールクラウドの調査。また、今後の取り組みに向けたクラウドソーシングとゲーミフィケーションの調査。

インテルの取り組み



ソーシャル対応の従業員

フェーズ 1

- インスタント・メッセージング
- 単純なコンテンツ共有
- ソーシャルフォーラム

フェーズ 2

- ユニファイド・メッセージング
- 対話型コンテンツ・コラボレーション
- 企業ソーシャルフォーラム
- Expert Finder

フェーズ 3

- (複数のデバイスにわたる対話型) 電子ホワイトボード
- HD A/V を備えた仮想ワークスペース
- クラウドソーシング
- ゲーミフィケーション

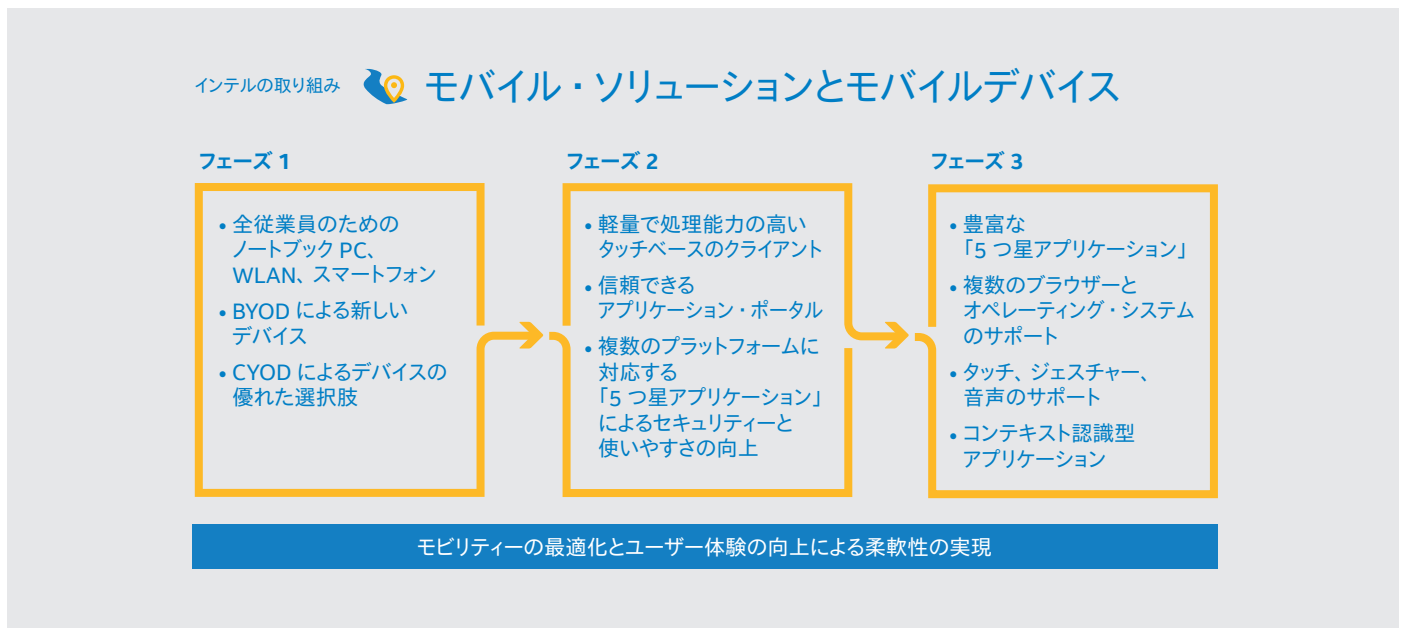
集团的インテリジェンスの向上と製品の市場投入までの時間の短縮

モバイル標準

インテルでは、モバイル・コンピューティングの基盤を築くために、約17年前から将来を見据えたアプローチを採用していました。現在インテルIT部門では、62カ国143拠点の9万人の従業員をサポートしており、モビリティとコラボレーションは仕事に不可欠な部分となっています。モバイル機能への取り組みは次のとおりです。

- ノートブックPC、ワイヤレス・ネットワーク・アクセス、スマートフォンによる全従業員のモバイル化の実現

- 仕事に最適なツールが見つかることが基準となる、従業員への選択肢の提供。バッテリー持続時間が長く、Windows* 8オペレーティング・システムとタッチ機能を搭載した軽量で処理能力の高いモバイルデバイスのサポート
- セキュリティ、イノベーション、使いやすさの要件についてインテルIT部門の品質基準を満たす、マルチプラットフォーム・アプリケーション向けの信頼できるアプリケーション・ポータルを導入

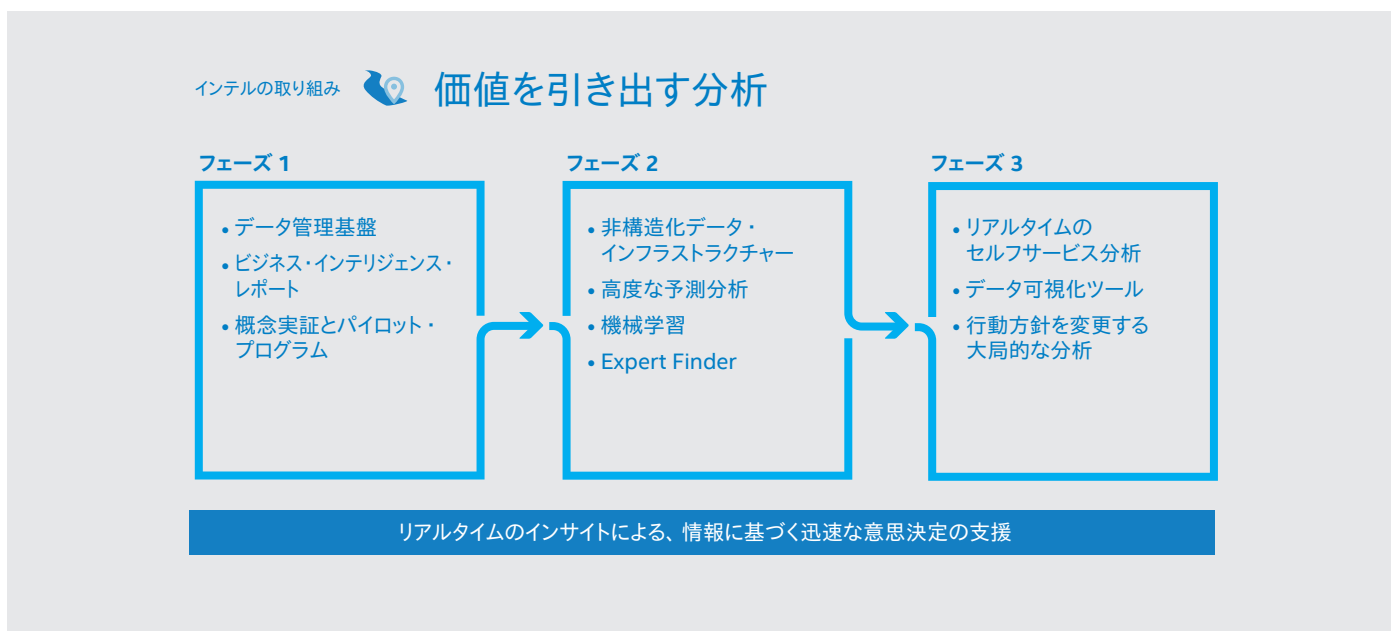


共有データの分析

インテルIT部門では、データ管理とビジネス・インテリジェンスの強固な基盤から、分析機能への取り組みを開始しました。そこから機能はさらに進化を遂げ、非構造化データ、機械学習、データ可視化が組み込まれました。高度な分析機能への取り組みは次のとおりです。

- 顧客対応時間の短縮と在庫の最適化によるサプライチェーンの合理化など、企業全体での品質管理の向上を目的とした高度な予測分析と機械学習のサポート

- 工場、販売、設計の各業務の予測分析機会の継続的な拡大
- 企業全体にわたり、ビジネスに関するリアルタイムのインサイトを誰でも利用できるようにすることを目的とした、高度なセルフサービス分析の民主化の支援の拡大



実施中の施設戦略

インテルの場合、施設におけるイノベーションの原動力となったのは、パーティションで小さく区切られたスペースが使用されていないということの認識でした。従業員は会議室に集まってグループで仕事をしており、パーティションで区切られたスペースはほとんど使われていませんでした。インテルの企業サービス部門は、必要な改革の道筋を示すために、The Way We Workと呼ばれるプログラムを作成しました。このプログラムは、ワークスタイル、選好、企業アイデンティティ、スペースの有効利用への対応を目指した一連の指針に基づいています。

- ワークスタイル:** コラボレーション、チームワーク、問題解決に最適化されたオープンなスペースを設計します。これらのスペースには、ネットワーク接続され、HD オーディオ/ビデオを備えた仮想オフィスを作成できる個人用電話ブースを設け、従業員が気軽に移動しながら仕事ができるようにすることで、モバイルワーカーのニーズを促進します。

- いたいと思える場所:** 従業員が出社したくなるような現代的で居心地の良い場所を作ります。このスペースは未来的な外観と雰囲気を用意し、インテルの先進的な従業員を惹きつけ、その場に引き留めます。
- アイデンティティ:** 企業アイデンティティと文化を維持し、提示します。インテルのイノベーションとテクノロジーを表現する空間を作ります。
- スペース効率:** 既存スペースを再利用してコストを削減するなど、スペースを最大限活用することを目指します。

インテルでは、施設の指針をワークグループ（「コミュニティ」）にも適用しています。個人の作業エリア、チーム共有エリア、コラボレーション・ルーム、個人用電話ブースなど、それぞれのニーズを把握するために、各コミュニティが評価されます。つまり、職場環境計画においては、

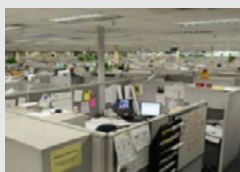
「One-Size-Fits-All」とも呼ばれる、1つの方法ですべてのニーズに対応するアプローチの終わりを示すことで、スペースを利用する個人のニーズを中心としたプランニングを最適化します。

インテルの取り組み



コミュニティの一新と更新

以前：限定的で孤立した、パーティションで区切られた小さなスペース



現在：オープンな共同作業スペースとチーム共有エリア



使用率の低い個別スペースからチームのハブエリア / コラボレーション・エリアを作成

展望

職場改革に向けたインテルのビジョンは、これまでの経験に根差しており、常に将来に目を向けた、業界をリードする技術革新によって支えられています。こうしたインテルの職場改革の原則を各組織に適用することで、競争力をもたらす最新のツールとテクノロジーを利用して、絶えず変化する職場の課題に対処することが可能になります。

高度なコラボレーション、生産性、統合された職場環境の実現から、イノベーションを生み出す源は人であるという認識に至るまで、インテルは進化し続けるエンタープライズの新しいワークスタイルを、エコシステム・パートナーと協力し、引き続き模索、拡大していきます。

関連資料

『What's Next: The Near Future of Work』

ワイヤレス機能とタッチスクリーン・コラボレーションから、デジタル・アシスタントと顔認識まで、最新のテクノロジーについては、このビデオをご覧ください。

<http://www.intel.com/content/www/us/en/enterprise-mobility/secure-network-vermeer-my-assistant-video.html> (英語)

『Digital Personal Assistant for the Enterprise』

Virtual Assistantにより、従業員が定型業務を自動化し、目の前の仕事に集中することが可能になる仕組みが分かります。

<http://www.intel.com/content/www/us/en/it-management/intel-it-best-practices/digital-personal-assistant-for-the-enterprise.html> (英語)

『Planning Guide: Modern Collaborative Technologies』

従業員が社内と社外のどちらにいるかにかかわらず、最新のコラボレーション・テクノロジーを組織に導入する準備をしてください。

<http://www.intel.com/content/www/us/en/collaboration/workplace-collaboration-planning-guide.html> (英語)

『Evaluating Intel® Pro Wireless Display for Enterprise Use』

インテル® Pro ワイヤレス・ディスプレイにより、全体的なユーザー体験が向上し、共用エリアでのコラボレーションが促進される仕組みの詳細をご覧ください。

<http://www.intel.com/content/dam/www/public/us/en/documents/white-papers/evaluating-intel-pro-wireless-display-for-enterprise-use-paper.pdf> (英語)

¹ 「2017年までに、エンタープライズ・ソフトウェア市場の総収益の26%以上が⁶ Nexus of Forces (力の結節) によってもたらされると予想されます」 Gartner (2013年12月)。 <http://www.gartner.com/newsroom/id/2636116>

Intel、インテル、Intelロゴは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

Microsoft、およびWindowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1

<http://www.intel.co.jp/>

©2015 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2015年4月

